

《特選》

私がこれから

心がけたいこと

稲枝中学校 二年

なかむら いちこ
中村 一心 さん

私は今年の道徳の授業で

学んだ、人権学習の部落についてを考える中で、道路や家などが整備されていない、実体的な差別、結婚や就職先などが制限される、心理的な差別と大きく分けた二つの差別があることがわかりました。実際に滋賀県でもあった差別を聞くことや動画を見て、心理的な差別の方が、苦しまれている人が多いと思いました。

私は、実際にあった差別の話聞く中で、差別をなくすために活動をされている方がいること、どんな差別がお

こっているのかがわかりました。自分は、皆と同じように過ごしたくても、その地域に生まれただけで、自分が制限されたり、そのせいで、結婚が就職を選ばなくてはいいけないことがあり、自分のしたいように生きていけないことの苦しさがとても伝わってきました。

私が授業をして学ぶこと、部落差別を理解することで、周りの人に差別について話し、知ってもらうことができそうです。差別について分かることが増えると、差別は減っていくと思うので、私は今回で学んだことを身近な人や家族など自分で伝えられる範囲の人に伝え理解できる人を増やしていきたいです。

私は今回の授業で「それがどうしたん？」という言葉を教えてもらい、部落の人だけでなく、差別に出会ったときに、「部落の地域出身」「女性

やけど、男性っぽいものがある」「男性やけど、女性っぽいものがすき」などを聞いても、「それがどうしたん？」と平気で言えるような人になりたいと思いました。差別は部落差別だけでなく男女差別などを聞いたことがありません。男女差別は「普通と違う」「変わっている」などというイメージがあるかもしれないですが、自分が好きなものを好きなように使うという、普通の、変わっていない行動だと思います。

私は、人権学習について考えてみました。差別という言葉は聞くことがあっても、どんな差別があるのか、何に苦しむ人がいるのかをあまりまだ知らないのです。差別をなくす、人に知ってもらうために、自分も部落差別だけでなく、他にも色々な差別について知ろうと思いました。差別をなくすために、私が差別

について知る、その差別について自分の周りの人にも知ってもらうことを心がけて生活したいです。

《選評》

人権学習で「部落差別」について学ぶ中で、差別をなくすために活動している人がいることやどんな差別があるのかを知るようになりました。自身も差別をなくすため、人権学習などを通して、色々な差別について学び、学んだことを周りの人に知ってもらい、理解者を増やすことが必要であると気づきました。今後、自身が進んでいきたい方向をしっかりと示している点が良かったです。

(北川 博)